

# 18歳意識調査 「第43回 -国際・多文化共生意識-」要約版

---

日本財団 2021年12月22日

# 目次

調査概要	3
用語の定義	4
海外留学の予定・希望	6
海外留学に興味・関心を持った時期	8
海外留学に興味を持ったきっかけ	9
経験したことがあるもの	10
海外留学先	11
海外や外国語に対する意識	12
海外留学への意欲・興味・関心の変化	13
外国人労働者に関する見解①	14
外国人労働者に関する見解②	16
外国人労働者に関する見解③	18
外国人労働者に関する見解④	20
外国にルーツのある子どもとの接点	22
外国にルーツのある子どもに関する見解	23
外国にルーツのある子どもに対する公的な支援のあり方	25
学校で出会った外国にルーツのある子どもの様子について	27

# 調査概要「18歳意識調査」 -国際・多文化共生意識-

**調査対象** 全国の17歳～19歳男女

**回答数** 1000

※下記の割付にて回収

	17歳	18歳	19歳	計
男性	166	167	167	500
女性	166	167	167	500
計	332	334	334	1000

**調査除外** 下記の関係者は調査から除外  
印刷業・出版業/マスコミ・メディア関連/  
情報提供サービス・調査業/広告業

**実施期間** 2021年11月12日（金）～11月16日（火）

**調査手法** インターネット調査

※注記：調査協力者がインターネット利用者に限られるなど、回答者に何らかの偏りが生じる可能性があり、必ずしも日本全体の17～19歳男女に妥当するものではない。

※注記：本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

# 用語の定義

この調査では、日本で働いており日本国籍を持っていない人を、「外国人労働者」と呼びます（技能実習生、正規雇用、非正規雇用、パート、アルバイト、個人事業主などを全て含みます）。また、日本に暮らしている人のうち、親の両方又は一方が外国籍を持つ18歳未満の人を「外国にルーツのある子ども」と呼びます。

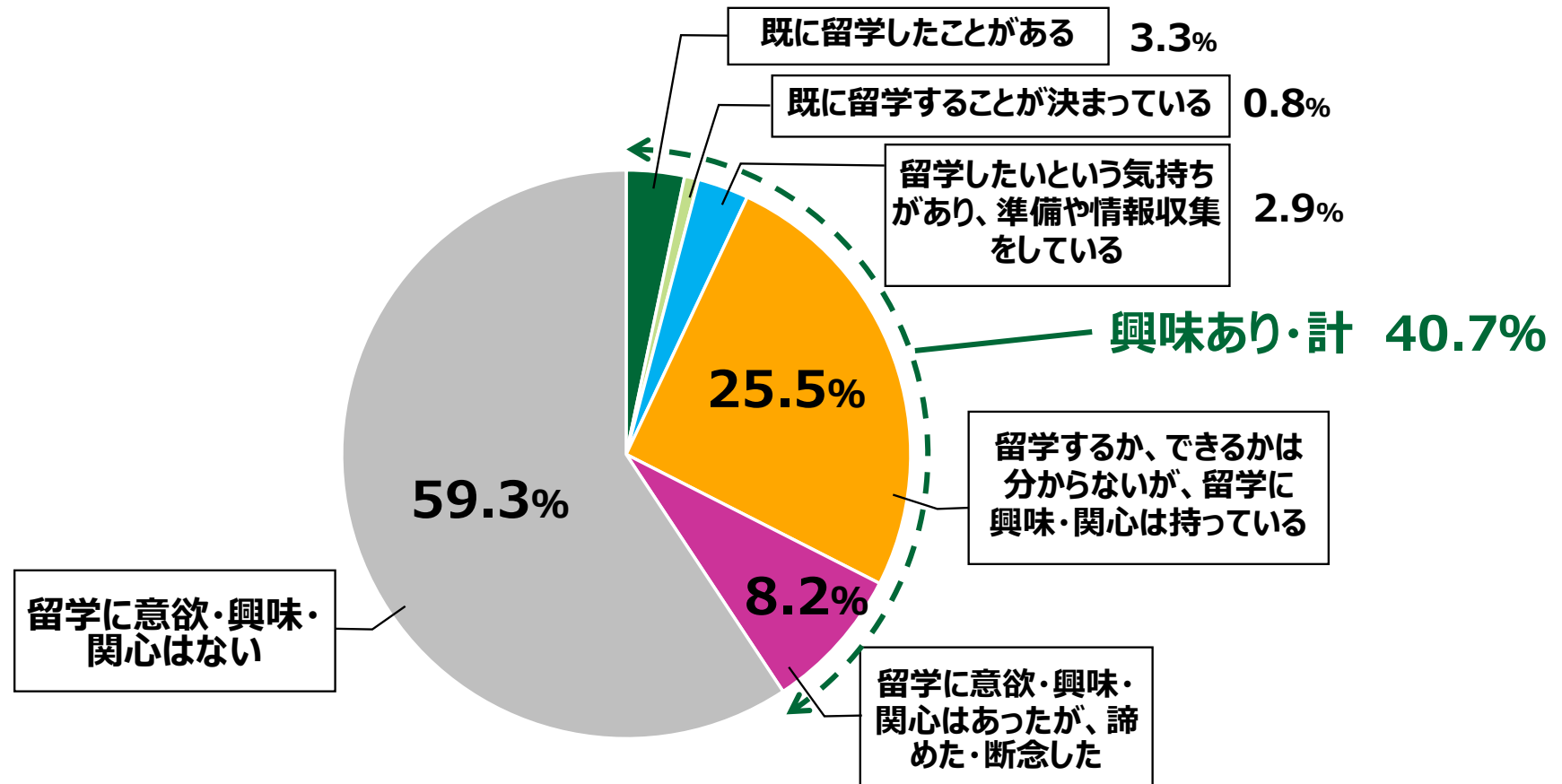
# 要約

---

# 海外留学の予定・希望（全体）

「留学に意欲・興味・関心はない」が約6割。「留学するか、できるかは分からないが、留学に興味・関心は持っている」が25.5%。8.2%が「留学に意欲・興味・関心はあったが、諦めた・断念した」と回答。

Q あなたの海外留学の予定や希望について伺います。以下のうち、当てはまるものを1つ選択してください。（n=1000）

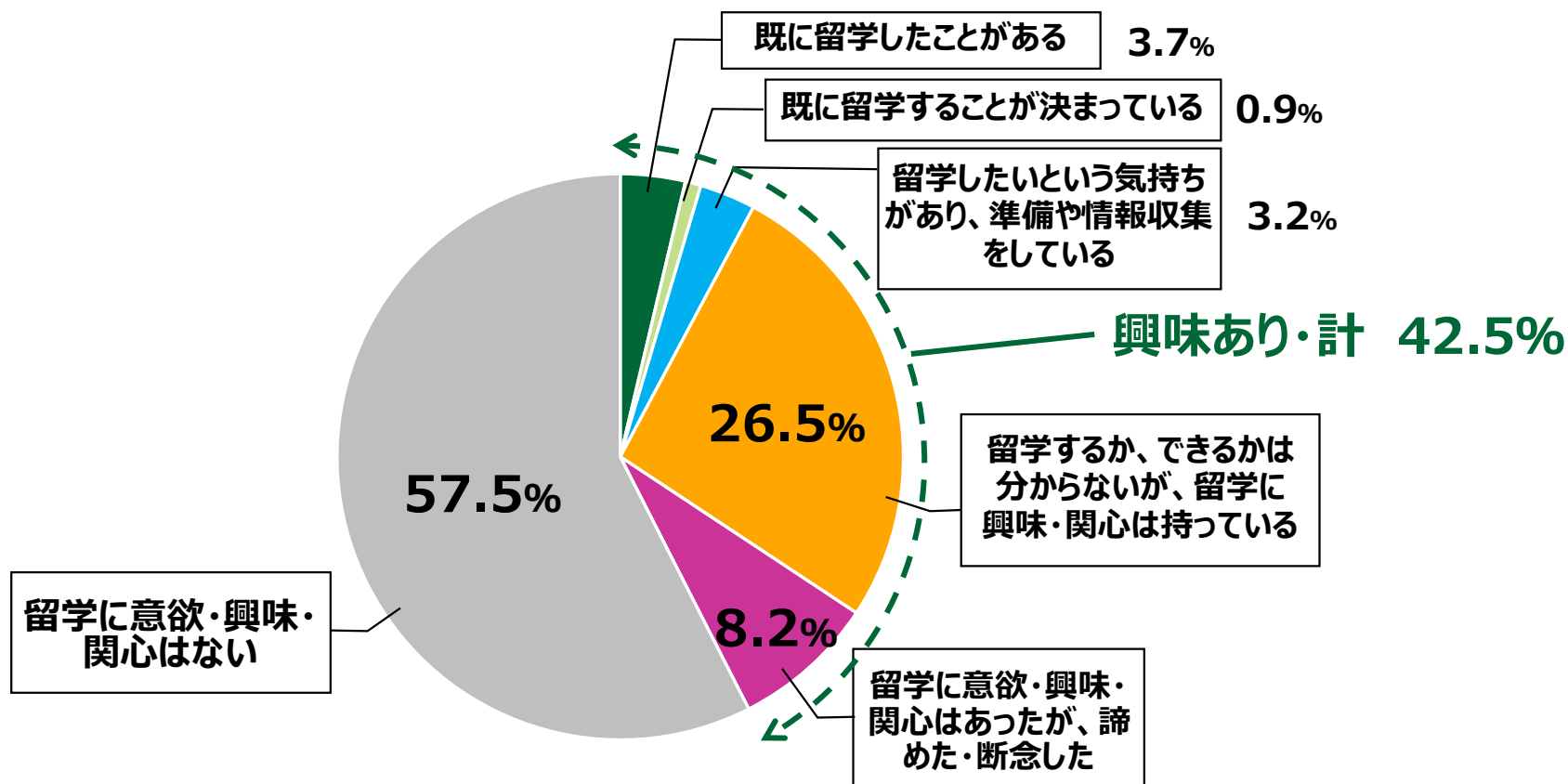


# 海外留学の予定・希望（学生のみ）

「留学に意欲・興味・関心はない」が過半数。「留学するか、できるかは分からないが、留学に興味・関心は持っている」が26.5%。8.2%が「留学に意欲・興味・関心はあったが、諦めた・断念した」と回答。

■ 学生のみ

Q あなたの海外留学の予定や希望について伺います。以下のうち、当てはまるものを1つ選択してください。（n=898）

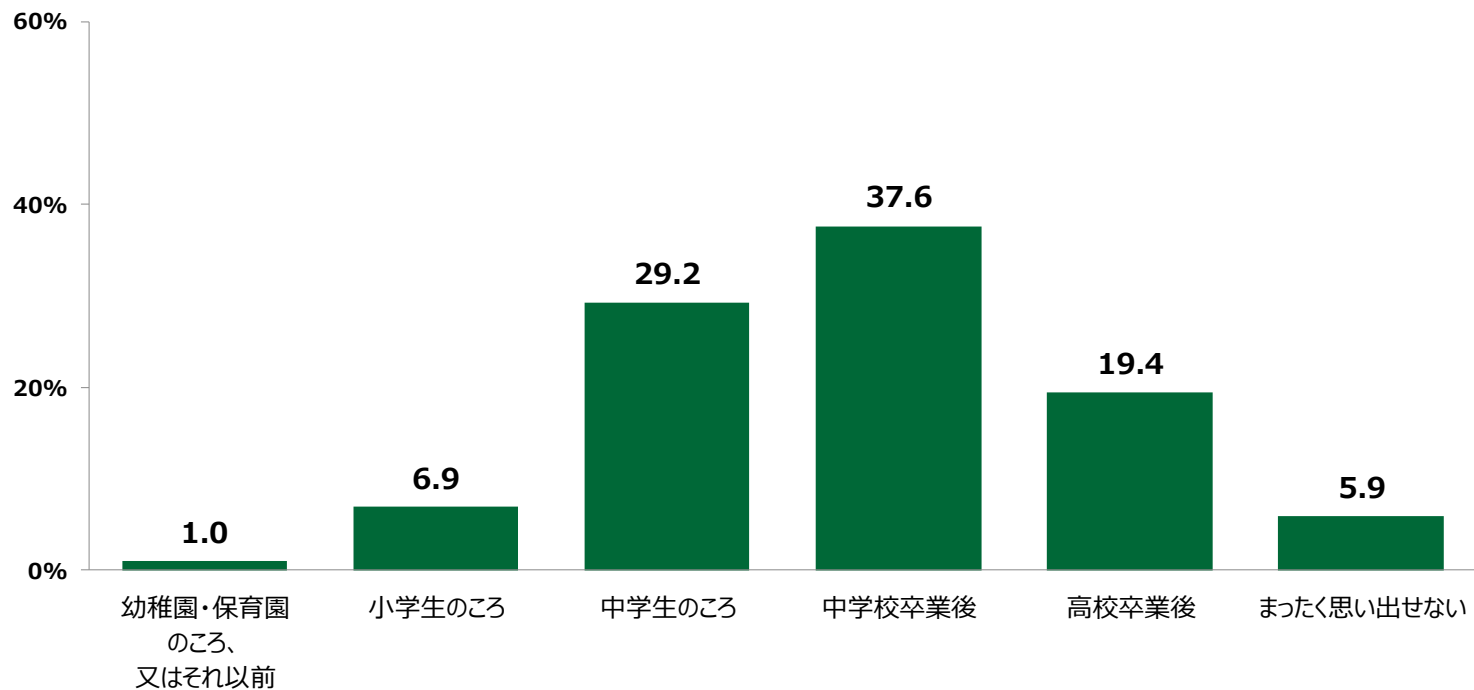


# 海外留学に興味・関心を持った時期

留学に興味・関心を持った時期は「中学校卒業後」が最も多く、37.6%。次いで「中学生のころ」（29.2%）、「高校卒業後」（19.4%）と続く。

■ 海外留学経験者・予定者・海外留学に興味・関心がある人

Q あなたが初めて海外留学に興味・関心を持ったのは、いつごろのことですか。（単一回答）（n=407）



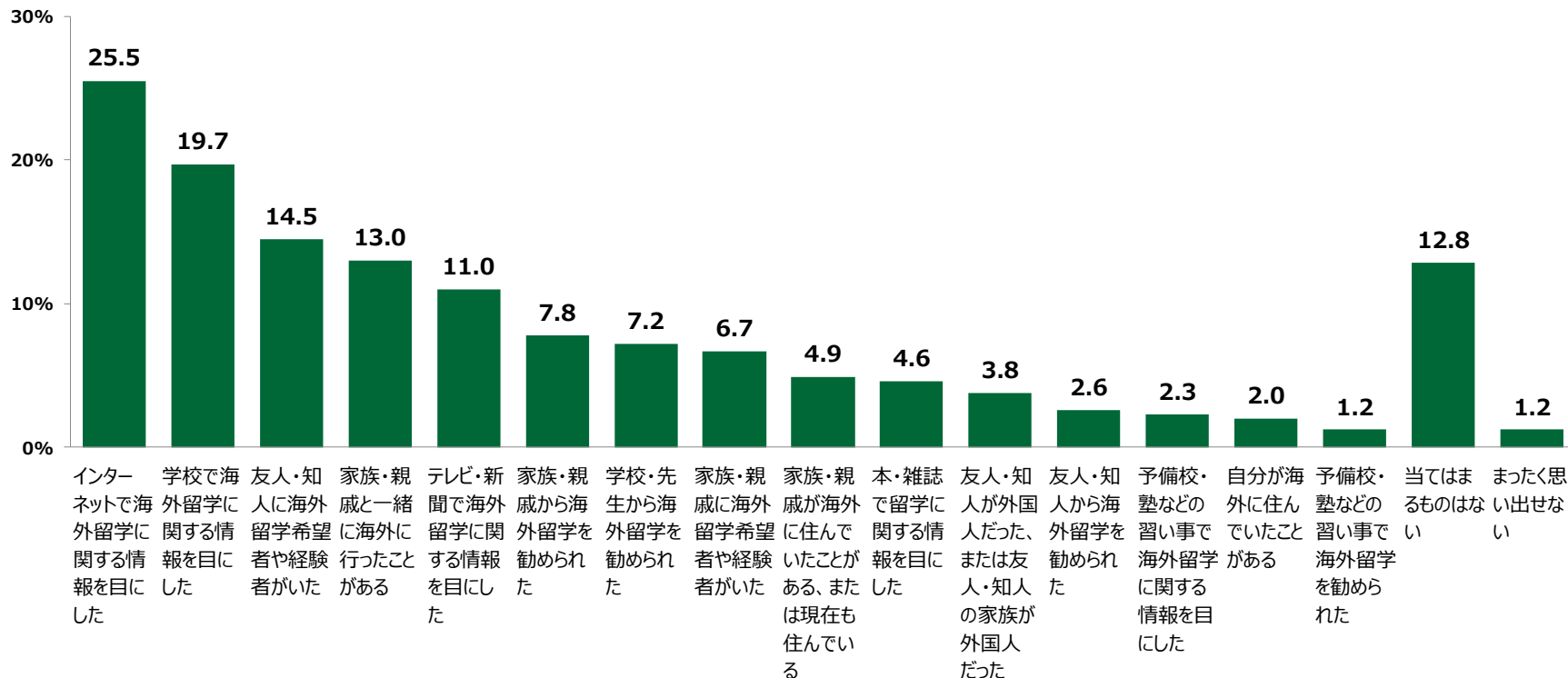


# 海外留学に興味を持ったきっかけ

海外留学に興味を持ったきっかけは「インターネットで海外留学に関する情報を目にした」が最多。ほか、「学校で海外留学に関する情報を目にした」「友人・知人に海外留学希望者や経験者がいた」「家族・親戚と一緒に海外に行ったことがある」が上位にあがる。

■海外留学経験者・予定者・海外留学に興味・関心がある人

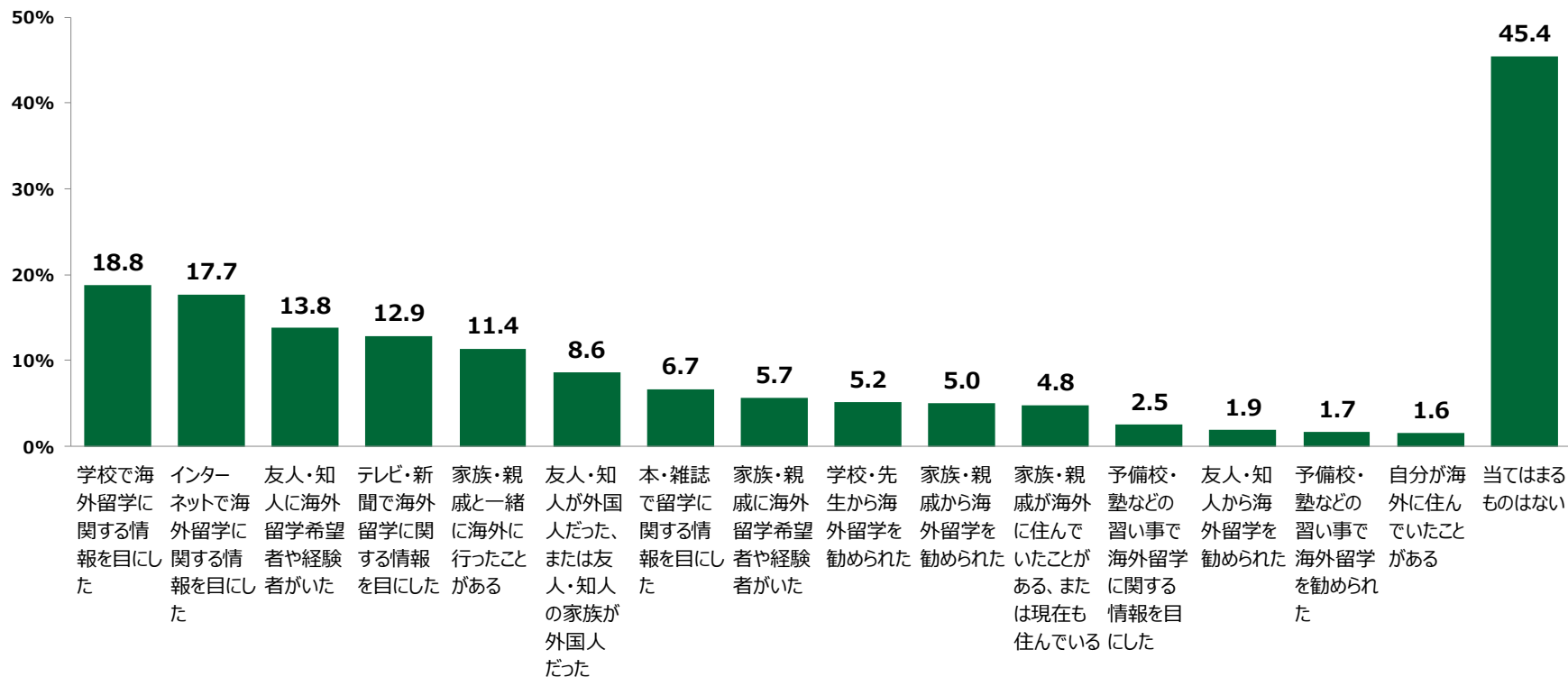
Q あなたが海外留学に興味を持ったきっかけとして、影響が大きかったと思うものを3つまで選択してください。  
(3つまで 複数回答) (n=345)



# 経験したことがあるもの

経験したことがあるものとして、「学校で海外留学に関する情報を目にした」(18.8%)、「インターネットで海外留学に関する情報を目にした」(17.7%)、「友人・知人に海外留学希望者や経験者がいた」(13.8%)が上位にあがる。

Q 以下の各項目について、あなたに当てはまる、又はあなたが経験したことがあるものを全て選択してください。(複数回答)  
(n=1000)



# 海外留学先

海外留学をしてみたい国は、1位「アメリカ」（67.5%）、2位「オーストラリア」（39.3%）、3位「カナダ」（32.2%）。また実際の留学先、予定先も上位は同様に「アメリカ」「オーストラリア」「カナダ」。

## ■海外留学に興味関心がある人

Q あなたが海外留学をしてみたいと思ったことのある国を、3つまで選択してください。（3つまで 複数回答）  
(n=366)

海外留学をしてみたい国 (n=366)		
1位	アメリカ	67.5%
2位	オーストラリア	39.3%
3位	カナダ	32.2%
4位	イギリス	31.4%
5位	フランス	16.9%
6位	韓国	15.6%
7位	シンガポール	11.5%
8位	ニュージーランド	10.1%
9位	中国	4.6%
10位	フィリピン	2.5%
	その他	13.9%

## ■海外留学経験者・海外留学予定者

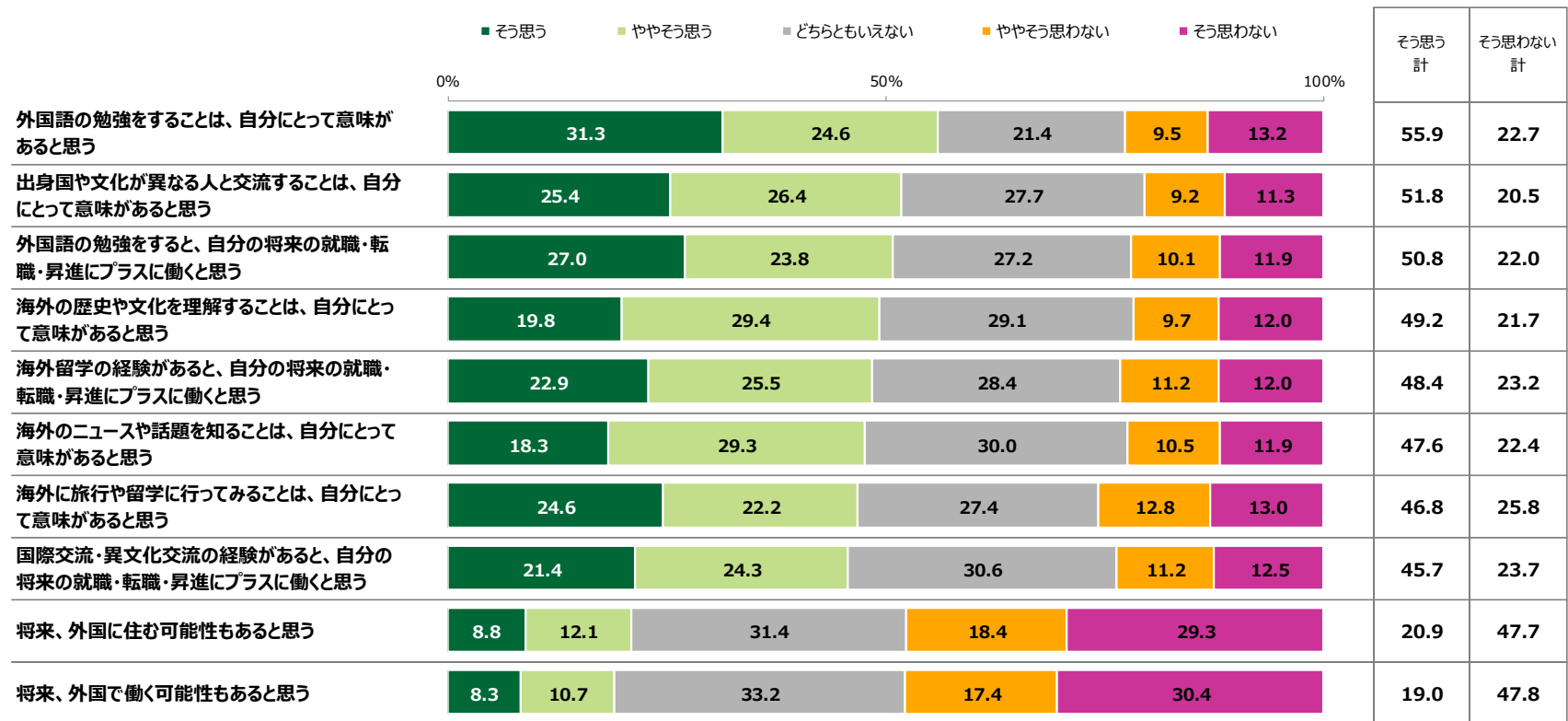
Q 既に留学したことがある、または既に留学することが決まっている方に伺います。  
あなたの海外留学先(予定先)を選択してください。  
留学経験・予定が複数ある場合は、それらを全て選択してください。（3つまで 複数回答） (n=41)

海外留学先・予定先 (n=41)		
1位	アメリカ	34.1%
2位	オーストラリア	22.0%
3位	カナダ	19.5%
4位	韓国	14.6%
5位	ニュージーランド	9.8%
6位	フィリピン	7.3%
7位	イギリス	4.9%
8位	フランス	2.4%
9位	中国	0.0%
9位	シンガポール	0.0%
	その他	14.6%

# 海外や外国語に対する意識

海外や外国語に対する意識として、「外国語の勉強をすることは、自分にとって意味があると思う」「出身国や文化が異なる人と交流することは、自分にとって意味があると思う」「外国語の勉強をすると、自分の将来の就職・転職・昇進にプラスに働くと思う」について半数以上が「そう思う・計」。「外国に住む可能性」「外国で働く可能性」はそれぞれ約2割が同意。

Q 以下の各項目について、あなたはどの程度賛同しますか。（各単一回答）



※ 「そう思う・計」（「そう思う」 + 「ややそう思う」）の比率の高い順に掲載

# 海外留学への意欲・興味・関心の変化

全体では「コロナ禍の前後で特に変わっていない」が60.7%。

留学に興味がある層は「コロナ禍の前後で特に変わっていない」が48.6%と全体に比べ低く、「意欲・興味・関心は弱くなり、現在も弱いままである」が21.4%となった。

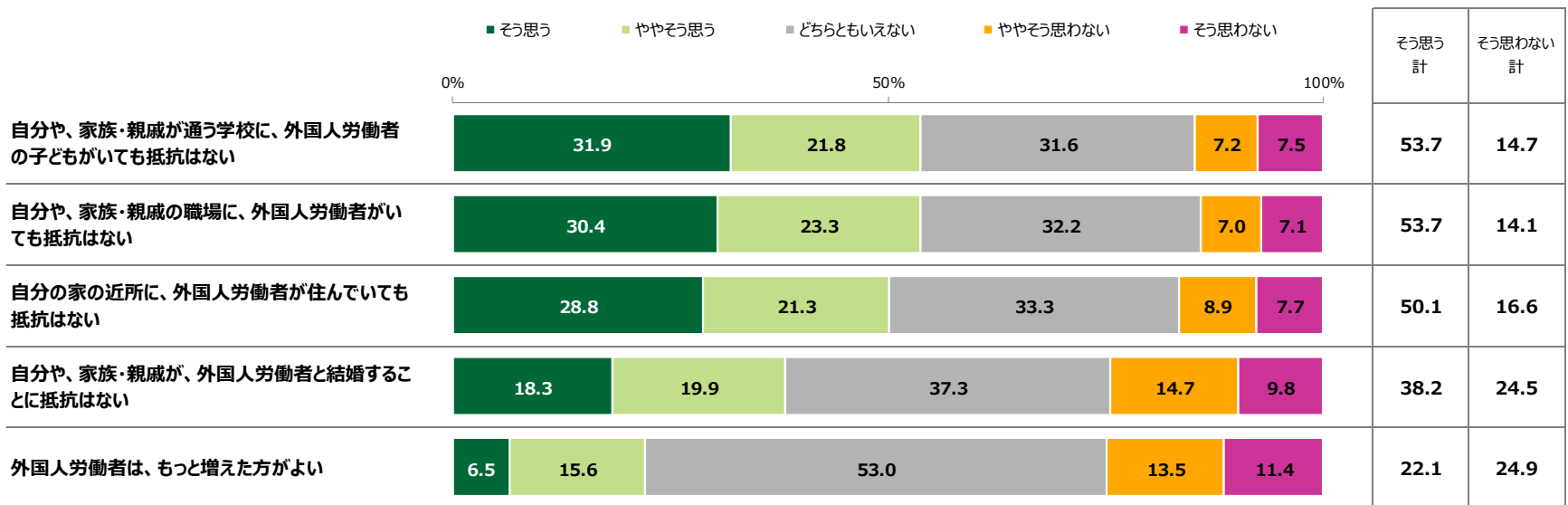
Q 日本国内では、2020年1月に新型コロナウイルスの感染者が初めて報告されました。2020年1月以降を、この調査では「コロナ禍以降」と呼びます。コロナ禍以降に、あなたの留学への意欲・興味・関心はどのように変わりましたか。（単一回答）

		コロナ禍の前後で特に変わっていない	意欲・興味・関心は弱くなり、現在も弱いままである	意欲・興味・関心が一度は弱くなったが、現在は元に戻った	意欲・興味・関心は強くなり、現在も強いままである	意欲・興味・関心が一度は強くなったが、現在は元に戻った	分からない／当てはまるものはない
全体	(n=1000)	60.7	11.2	5.3	3.4	1.7	17.7
留学に興味あり 計	(n=407)	48.6	21.4	10.3	6.9	2.2	10.6
留学経験/ 予定あり	(n=41)	53.7	19.5	12.2	4.9	0.0	9.8
既に留学したことがある	(n=33)	51.5	24.2	9.1	3.0	0.0	12.1
既に留学することが決まっている	(n=8)	62.5	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0
留学したいという気持ちがあり、準備や情報収集をしている	(n=29)	58.6	6.9	10.3	24.1	0.0	0.0
留学するか、できるかは分からないが、留学に興味・関心は持っている	(n=255)	51.8	18.8	11.8	5.9	2.4	9.4
留学に意欲・興味・関心はあったが、諦めた・断念した	(n=82)	32.9	35.4	4.9	4.9	3.7	18.3
留学に意欲・興味・関心はない	(n=593)	69.0	4.2	1.9	1.0	1.3	22.6

# 外国人労働者に関する見解①

外国人労働者について「自分や、家族・親戚が通う学校に、外国人労働者の子どもがいても抵抗はない」「自分や、家族・親戚の職場に、外国人労働者がいても抵抗はない」「自分の家の近所に、外国人労働者が住んでいても抵抗はない」は半数以上が同意。

Q 日本に住む「外国人労働者」に関する以下の各項目について、あなたの賛否を教えてください。（各単一回答）（n=1000）

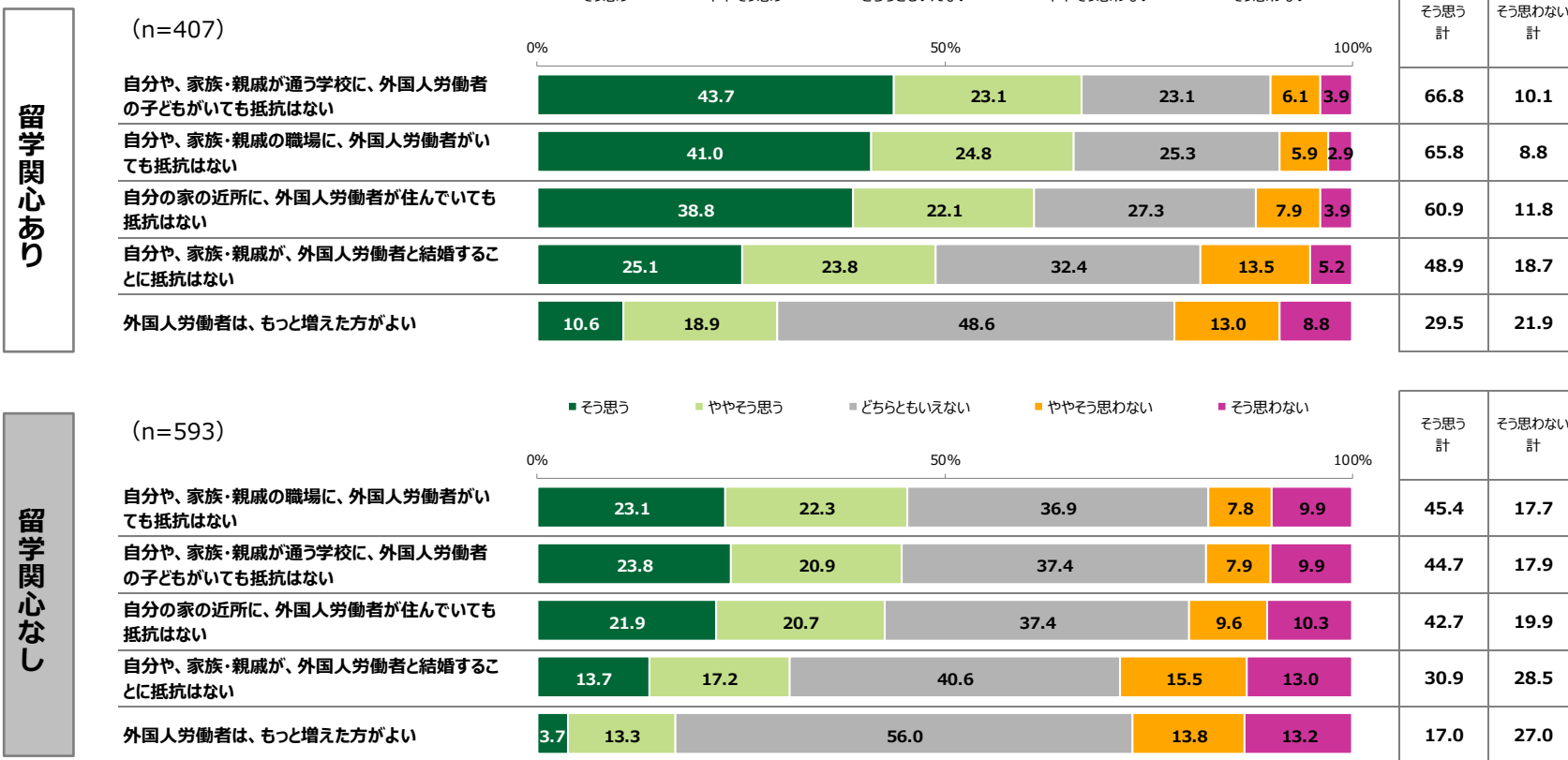


※「そう思う・計」（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率の高い順に掲載

# 外国人労働者に関する見解①

留学への関心がある層とない層で比較すると、関心がある層の方がいずれの項目も賛同の割合が多い。

Q 日本に住む「外国人労働者」に関する以下の各項目について、あなたの賛否を教えてください。（各単一回答）

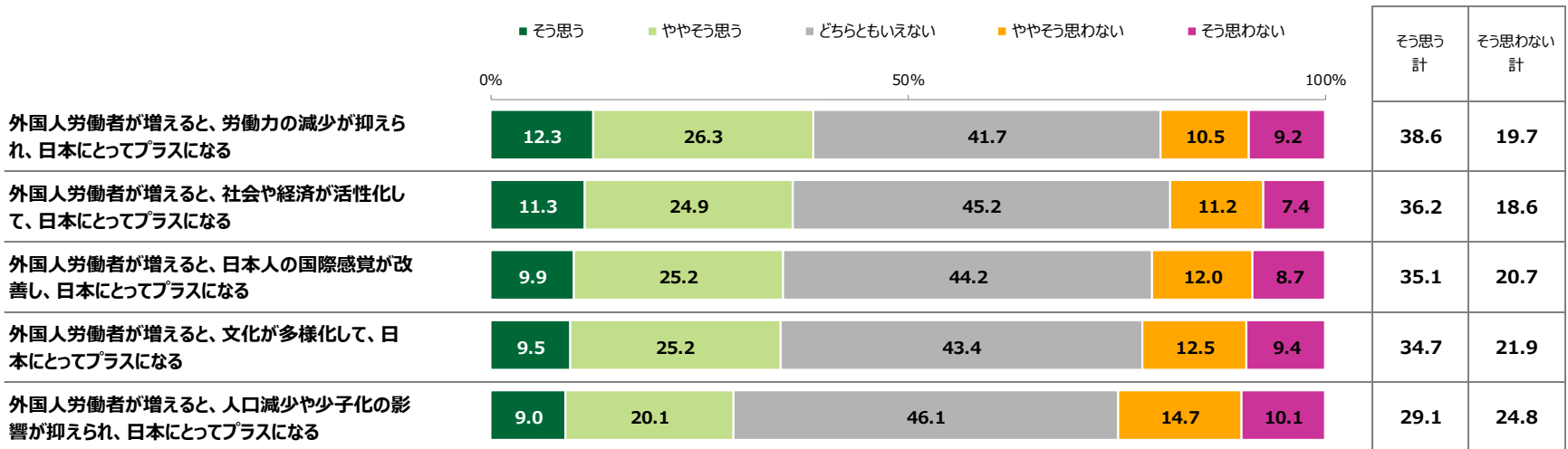


※「そう思う・計」（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率の高い順に掲載

# 外国人労働者に関する見解②

外国人労働者についてプラスになるという意見の中では、「外国人労働者が増えると、労働力の減少が抑えられ、日本にとってプラスになる」「外国人労働者が増えると、社会や経済が活性化して、日本にとってプラスになる」「外国人労働者が増えると、日本人の国際感覚が改善し、日本にとってプラスになる」がそれぞれ同意の割合が3割台後半。

Q 日本に住む「外国人労働者」に関する以下の各項目について、あなたの賛否を教えてください。（各単一回答）（n=1000）



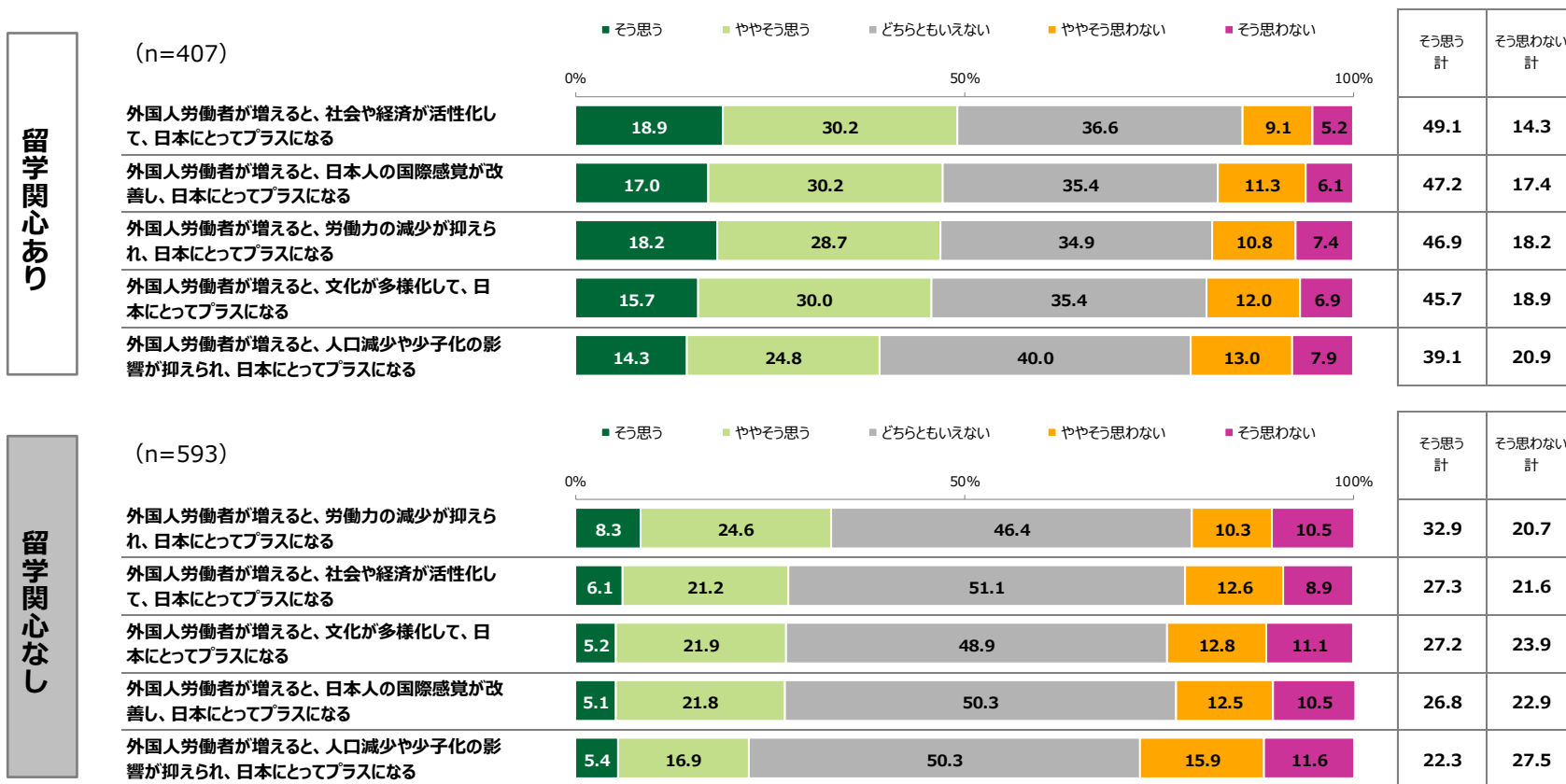
※「そう思う・計」（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率の高い順に掲載



# 外国人労働者に関する見解②

留学への関心がある層とない層で比較すると、関心がある層の方がいずれの項目も賛同の割合が多い。

Q 日本に住む「外国人労働者」に関する以下の各項目について、あなたの賛否を教えてください。（各単一回答）

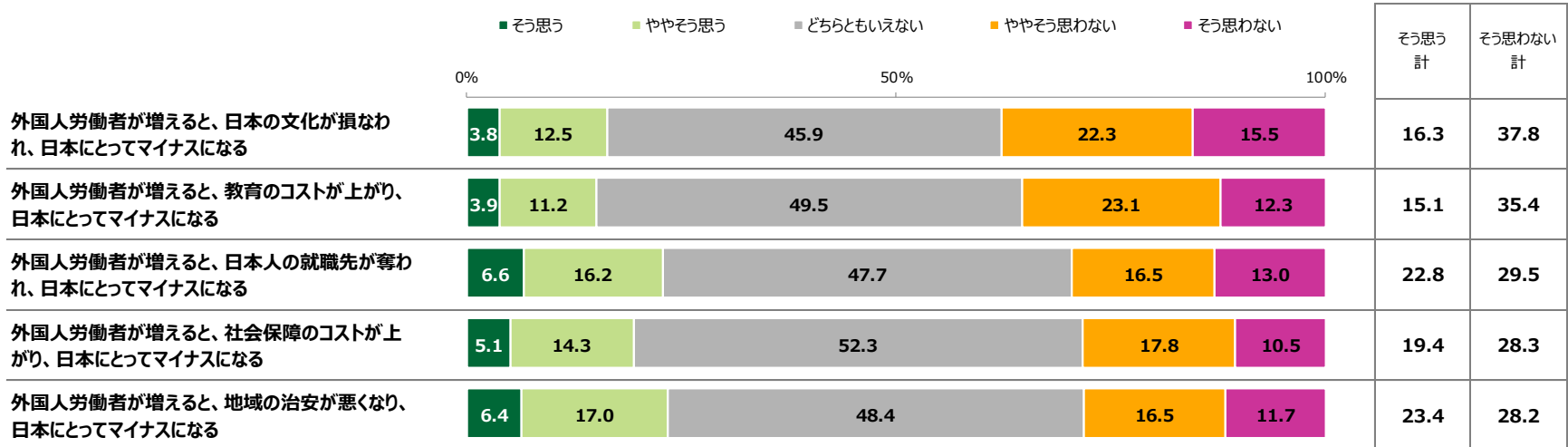


※「そう思う・計」（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率の高い順に掲載

# 外国人労働者に関する見解③

外国人労働者について、日本にとってマイナスになるという意見の中では、「外国人労働者が増えると、日本の文化が損なわれ、日本にとってマイナスになる」「外国人労働者が増えると、教育のコストが上がり、日本にとってマイナスになる」について「そう思わない・計」がそれぞれ3割以上。  
 いずれの項目も「そう思わない・計」が「そう思う・計」を上回っており、日本にとってマイナスになるという意見は少ない。

Q 日本に住む「外国人労働者」に関する以下の各項目について、あなたの賛否を教えてください。（各単一回答）（n=1000）

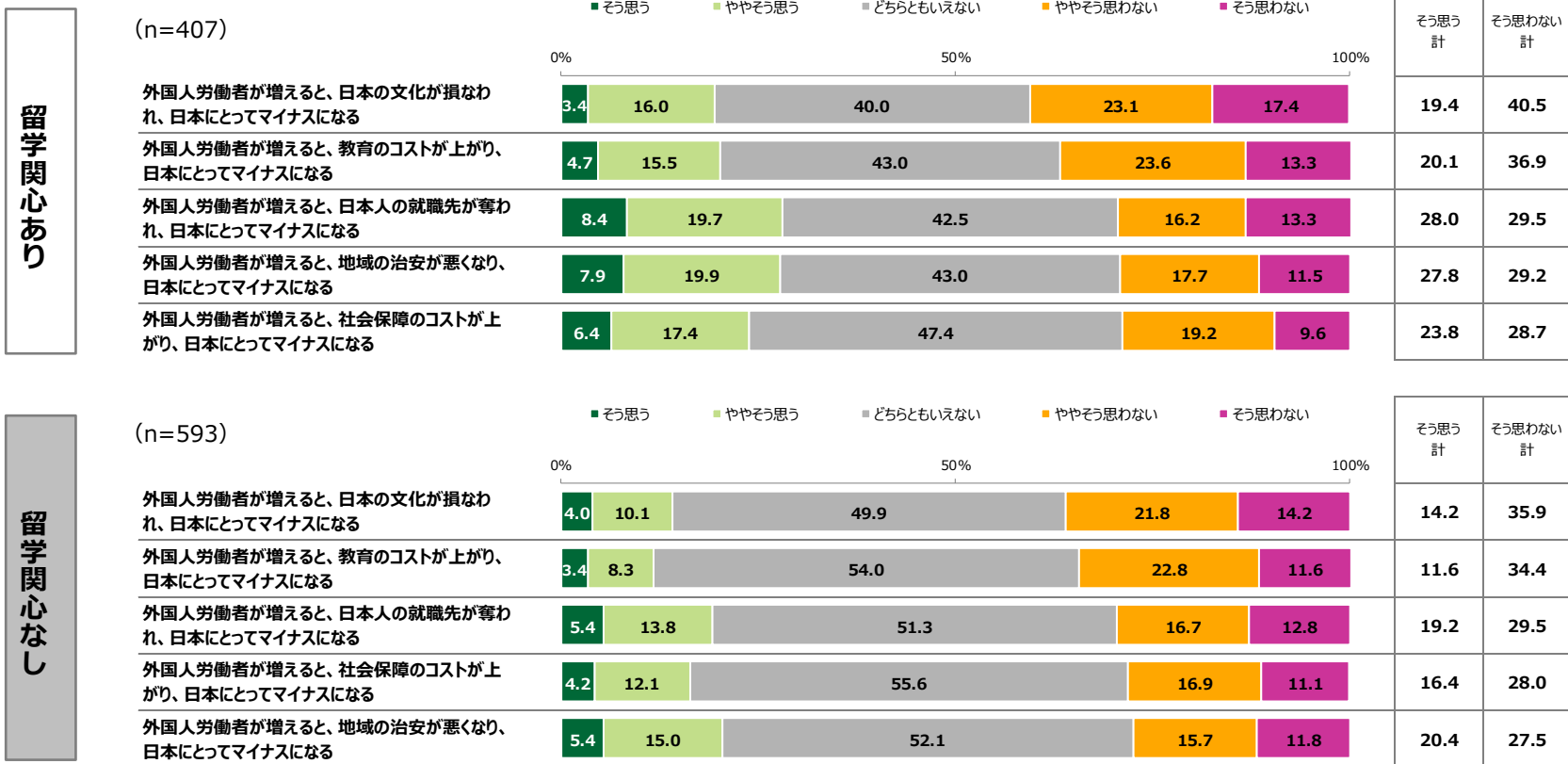


※「そう思わない・計」（「そう思わない」＋「ややそう思わない」）の比率の高い順に掲載

# 外国人労働者に関する見解③

留学への関心がある層とない層で比較すると、関心がある層の方が「そう思う・計」「そう思わない・計」ともに関心がない層に比べて多い。

Q 日本に住む「外国人労働者」に関する以下の各項目について、あなたの賛否を教えてください。（各単一回答）

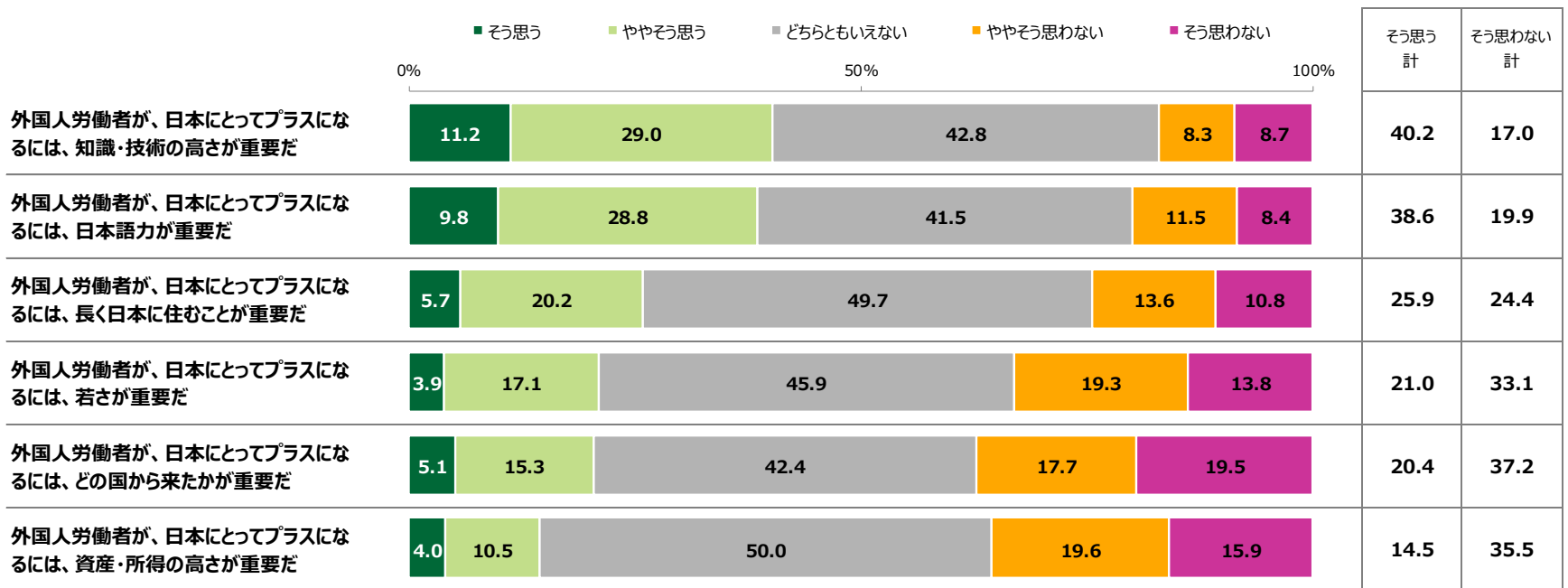


※「そう思わない・計」（「そう思わない」+「ややそう思わない」）の比率の高い順に掲載

# 外国人労働者に関する見解④

外国人労働者について、日本にとってプラスになるために重要なこととして、「外国人労働者が、日本にとってプラスになるには、知識・技術の高さが重要だ」「外国人労働者が、日本にとってプラスになるには、日本語力が重要だ」が3割以上で多い。

Q 日本に住む「外国人労働者」に関する以下の各項目について、あなたの賛否を教えてください。（各単一回答）（n=1000）

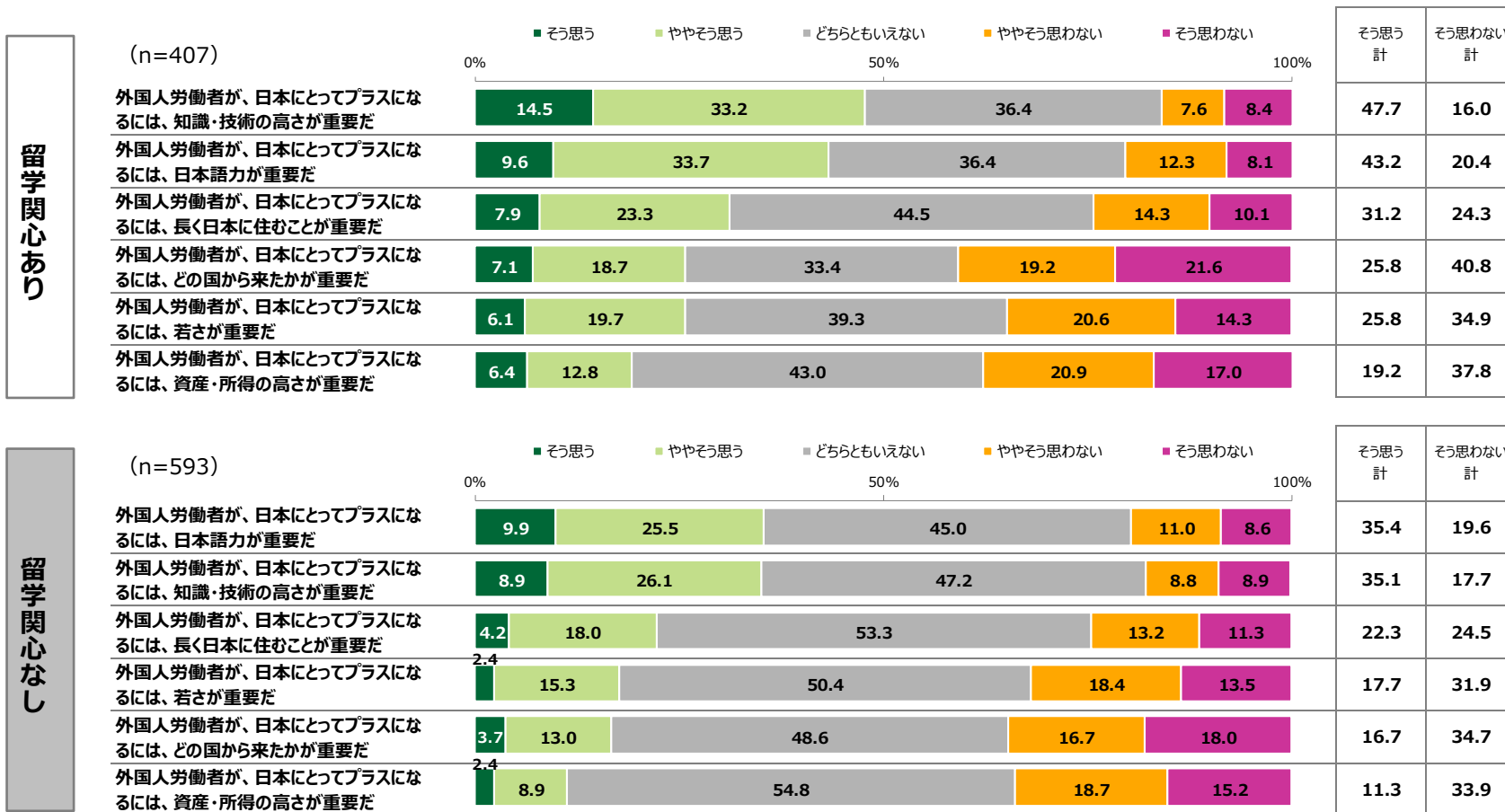


※「そう思う・計」（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率の高い順に掲載

# 外国人労働者に関する見解④

留学への関心がある層とない層で比較すると、関心がある層の方がいずれの項目も賛同の割合が多い。

Q 日本に住む「外国人労働者」に関する以下の各項目について、あなたの賛否を教えてください。（各単一回答）

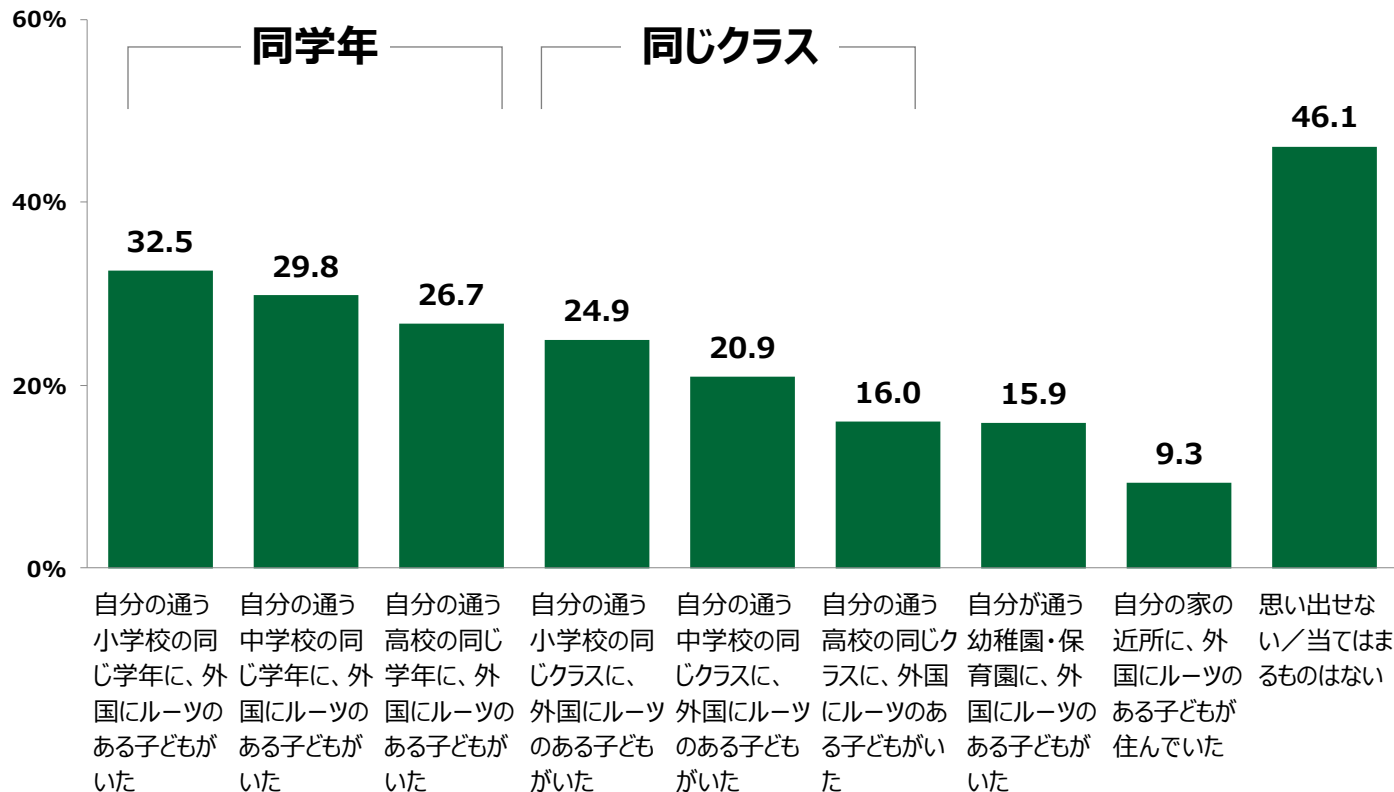


※「そう思う・計」（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率の高い順に掲載

# 外国にルーツのある子どもとの接点

外国にルーツのある子どもとの接点については自分の通う学校の同学年にいたという回答が上位を占め、「自分の通う小学校の同じ学年」（32.5%）、「自分の通う中学校の同じ学年」（29.8%）、「自分の通う高校の同じ学年」（26.7%）。

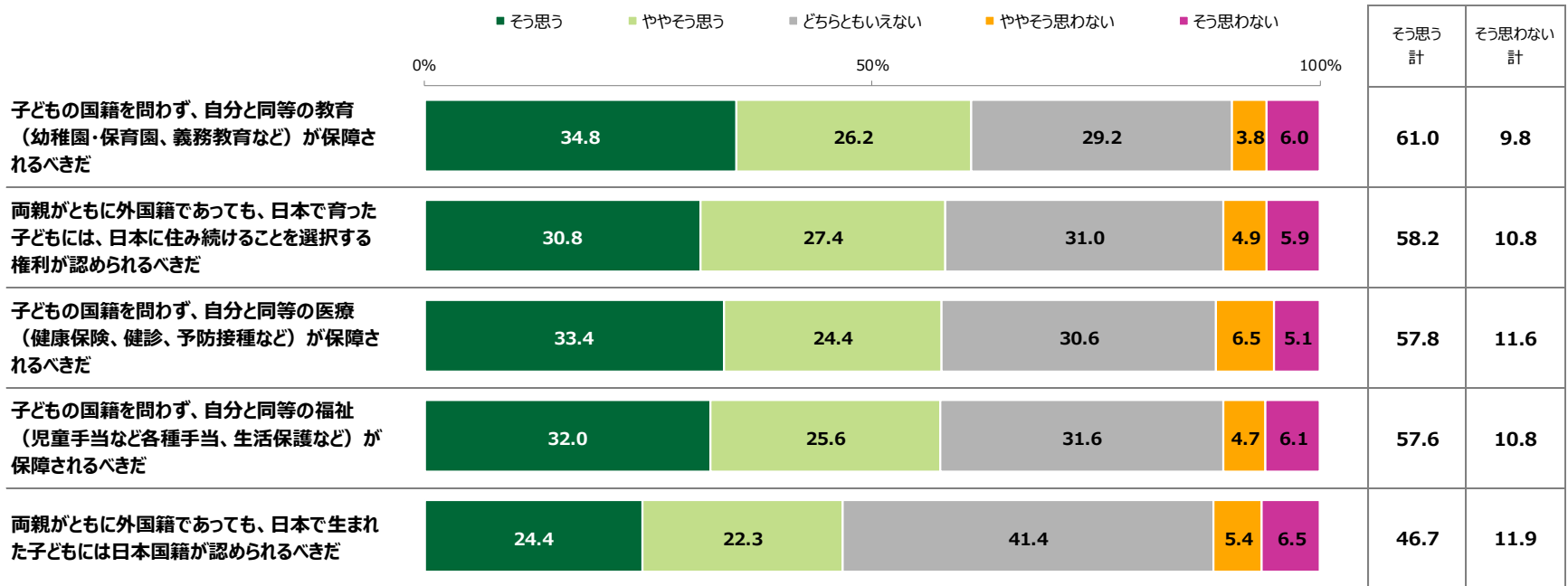
Q 日本に住む「外国にルーツのある子ども」とあなたの接点について伺います。  
以下のうち、一度でも経験したことがあるものを全て選択してください。（複数回答）（n=1000）



# 外国にルーツのある子どもに関する見解

外国にルーツのある子どもについて、「子どもの国籍を問わず、自分と同等の教育（幼稚園・保育園、義務教育など）が保障されるべきだ」は賛同意見が61.0%と多い。ほか、「両親がともに外国籍であっても、日本で育った子どもには、日本に住み続けることを選択する権利が認められるべきだ」「子どもの国籍を問わず、自分と同等の医療（健康保険、健診、予防接種など）が保障されるべきだ」「子どもの国籍を問わず、自分と同等の福祉（児童手当など各種手当、生活保護など）が保障されるべきだ」もそれぞれ賛同意見が過半数。

Q 日本に住む「外国にルーツのある子ども」に関する以下の各項目について、あなたの賛否を教えてください。（各単一回答）  
（n=1000）

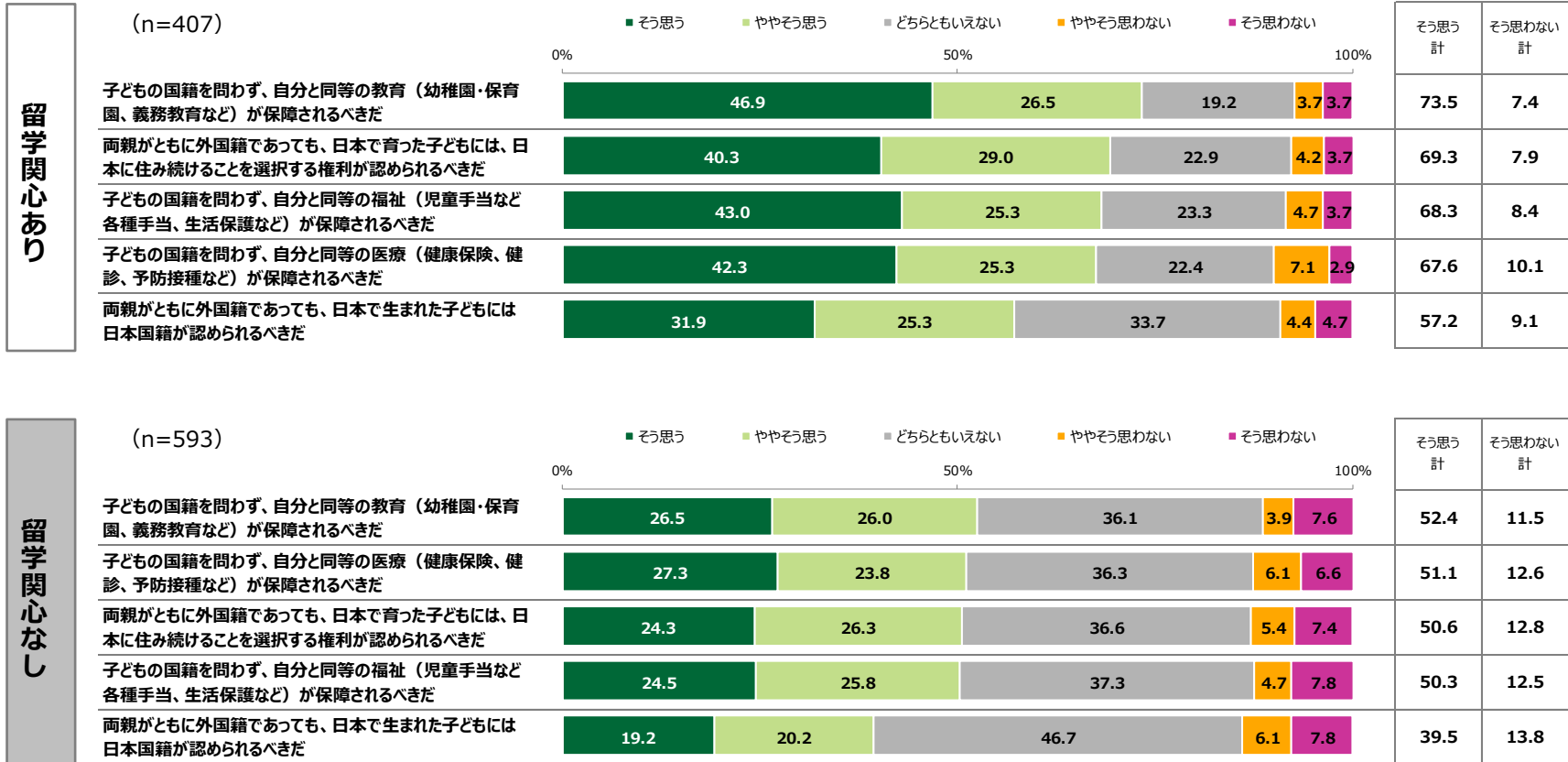


※「そう思う・計」（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率の高い順に掲載

# 外国にルーツのある子どもに関する見解

留学への関心がある層とない層で比較すると、関心がある層の方がいずれの項目も賛同の割合が多い。

Q 日本に住む「外国にルーツのある子ども」に関する以下の各項目について、あなたの賛否を教えてください。（各単一回答）



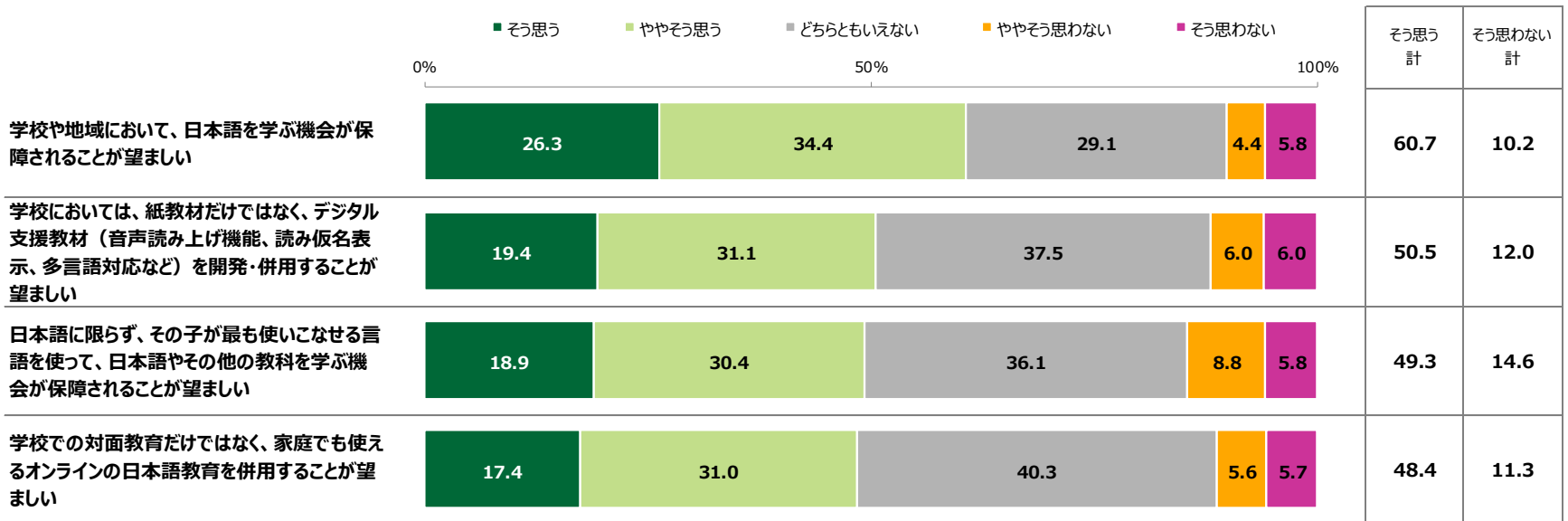
※「そう思う・計」（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率の高い順に掲載



# 外国にルーツのある子どもに対する公的な支援のあり方

外国にルーツのある子どもに対する公的な支援については、「学校や地域において、日本語を学ぶ機会が保障されることが望ましい」は60.7%。次いで「学校においては、紙教材だけではなく、デジタル支援教材（音声読み上げ機能、読み仮名表示、多言語対応など）を開発・併用することが望ましい」が50.5%。

Q 日本の学校では、学習に必要な日本語力が不足している、または日常会話が十分にできないなど、日本語に困難を抱える子どもが増加しているとの調査結果があります（※注）。日本語に困難を抱える「外国にルーツのある子ども」に対して、国や自治体が行う公的な支援のあり方について、あなたの賛否を教えてください。（各単一回答）（n=1000）



※「そう思う・計」（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率の高い順に掲載

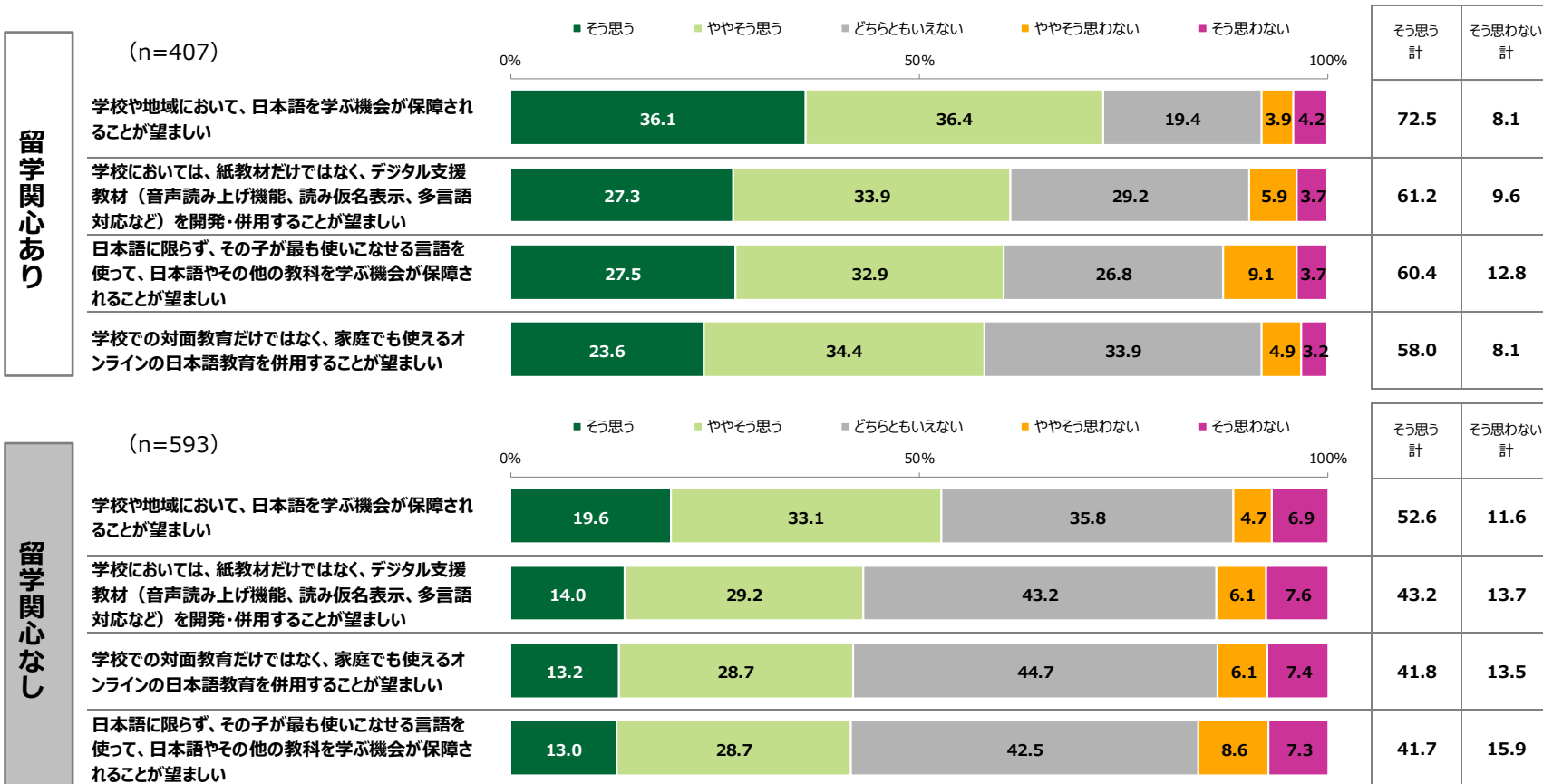
※注:2008年から2018年の10年間で、日本語の指導を必要とする子どもの数は、日本国籍の子どもで約2.1倍(2018年に10,371名)、外国籍の子どもで約1.4倍に増加しました(2018年に40,755名)。

出典:文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」

# 外国にルーツのある子どもに対する公的な支援のあり方

留学への関心がある層とない層で比較すると、関心がある層の方がいずれの項目も賛同の割合が多い。

Q 日本の学校では、学習に必要な日本語力が不足している、または日常会話が十分にできないなど、日本語に困難を抱える子どもが増加しているとの調査結果があります。日本語に困難を抱える「外国にルーツのある子ども」に対して、国や自治体が行う公的な支援のあり方について、あなたの賛否を教えてください。（各単一回答）



※「そう思う・計」（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率の高い順に掲載

# 学校で出会った外国にルーツのある子どもの様子について

学校で出会った外国にルーツのある子どもの様子については「特に困っている様子はなかった」が56.7%。困ることがある様子だったという回答の中では「学校で日本語の指導を受けていた」（18.6%）、「教科の勉強で用いられる日本語の理解に困ることがある様子だった」（16.2%）、「日本語での日常会話に困ることがある様子だった」（15.8%）。

Q あなたが学校で出会った「外国にルーツのある子ども」の様子について、当てはまるものを全て選択してください。  
(複数回答) (n=499)

